

SOMPOの適応に向けた取組み

2026年9月17日
損害保険ジャパン株式会社

- 1888年10月、日本初の民営火災保険会社として「東京火災保険会社」を創業
- 創業の想い『人々のくらしを罹災からお守りしたい』
- 当時、正式に認可された唯一の私設消防団「東京火災消防組」24時間365日 身を挺してお客さまを守る

火消し



火災の報せがあれば、
いち早く駆け付け暮らし
を守る「火消し」という
地域の課題解決



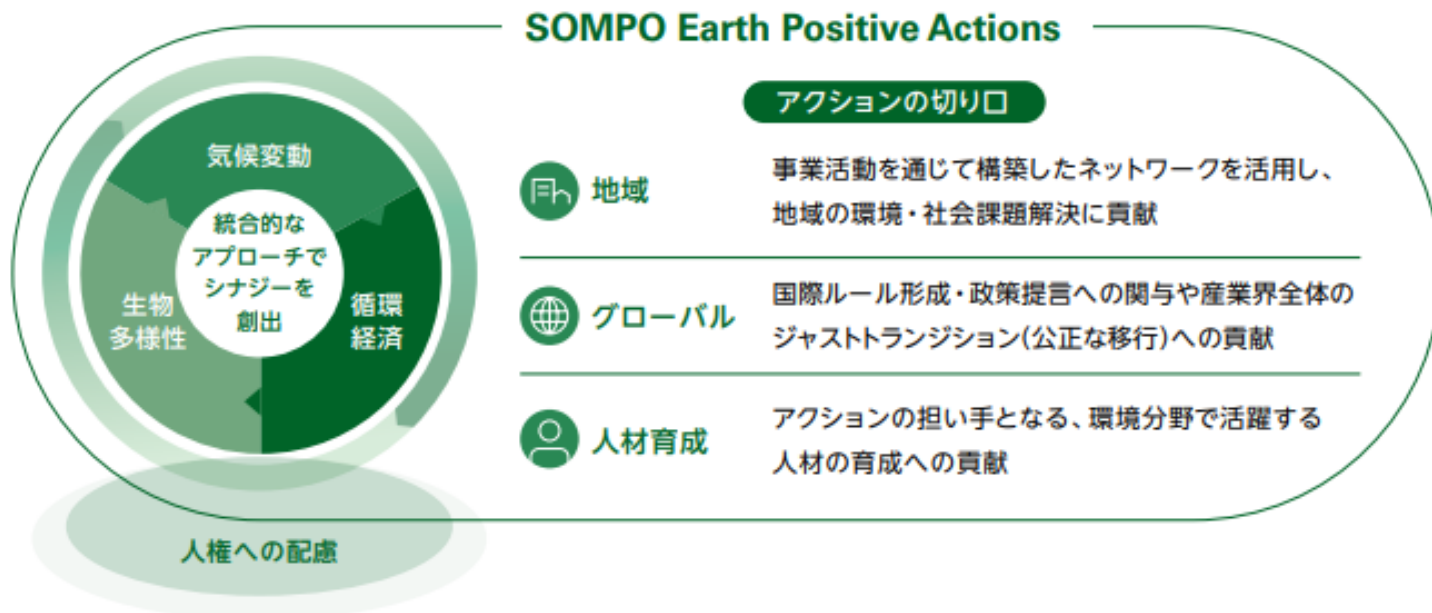
社会課題解決 <防災・減災>

激甚化する自然災害への
対応、社会課題の解決が
現代の「HIKESHI」
としての使命



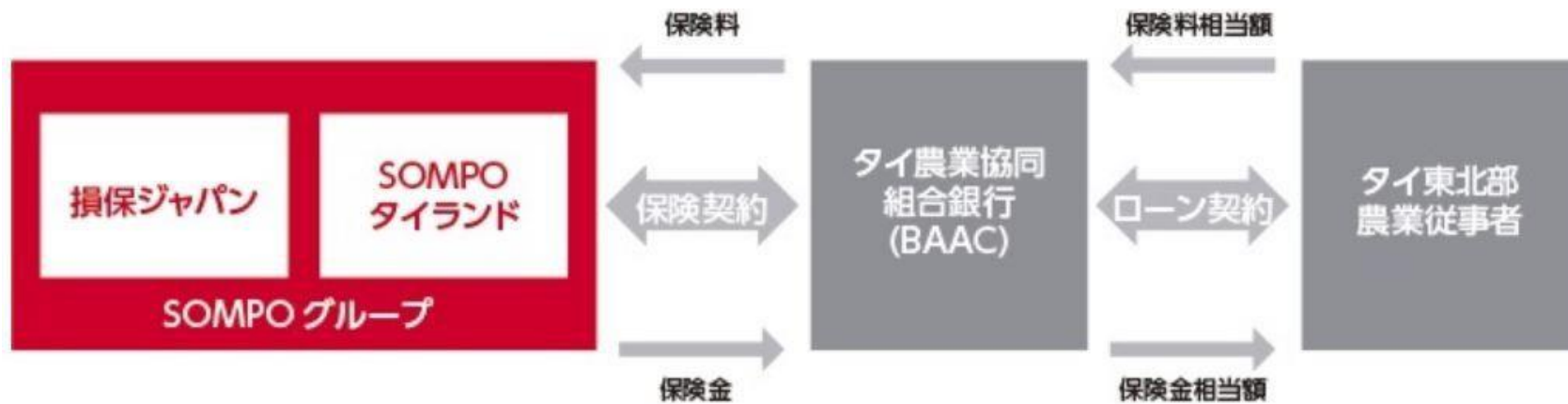
災害に強く、だれもが安心して暮らせる地域社会の実現へ

- 「SOMPO気候アクション（2021年～）」をアップデート、マテリアリティとして特定
- 気候変動、生物多様性、循環経済を統合的に捉えた「シナジーアプローチ」を推進。「人権への配慮」をすべての基盤に据え、地球環境への貢献とグループの持続的な成長の両立を目指す。
- 「地域のネットワーク」、「グローバルなルール形成への貢献実績」、「環境分野における人材育成」という、SOMPOならではの独自の強みを最大限に活かしたAction



- 2010年、タイ東北部の稲作農家の干ばつ被害の軽減を目的に、天候インデックス保険（※）販売開始。
（※）気温、風速、降水量などの天候指標が、一定条件を満たした場合に定額の保険金をお支払いする保険商品
- タイ農業協同組合銀行（BAAC）と協働し、BAACがローン契約者である農家に対して保険加入の募集。
ロンガン、サトウキビ、キャッサバなど、タイの主要輸出農業作物の農家を主眼として、AgriSompoo（農業マーケットにプラットフォーム）を通じて技術提供。

●保険販売・保険金のお支払いの仕組み（例：ロンガン農家向け）



バリューチェーンにおける物理的リスクへの対応

- 激甚化・頻発化する自然災害、グローバルなバリューチェーンで生じる損害は、深刻な財務リスクへと転換。
- 物理的リスクへの対応を重要な「経営テーマ」と位置づけ、WBCSDが以下のCEOハンドブックを発表。
- トヨタ自動車、富士通、IGESと、当該レポートの日本語版を製作、日本企業に向け普及啓発。



3月18日 WBCSD Summitにて、二つのレポートの日本語翻訳版発行を記念して。

- 一般社団法人ナチュラルキャピタルクレジットコンソーシアム（理事長：馬奈木俊介九州大学教授）の運営に参画、企業・金融・自治体等と連携し、**地域の質の高い自然資本のクレジット化**に取り組む。
- 地域のステークホルダーをつなぐハブとして、テクノロジーを活用して地域の脱炭素化、レジリエンス向上、ウェルビーイング向上を目指す。

ユニティ・グリーン工法（辻田建機特許）を活用したクレジット第1号

岡山県赤磐（事前）



（事後）



- その他、間断かんがい技術(AWD)を活用したJCMクレジットの普及拡大を目指すコンソーシアムへの参画、日本CDR協議会への加盟など、脱炭素と地域レジリエンスへの貢献を模索



（参考）[国内初の取引の実施～自然資本由来のカーボンクレジット市場形成に向けて～](#)

- 日本NPOセンター等と協働で生物多様性保全活動を行うプロジェクト。Web証券・約款や自動車事故時にリサイクルパーツを選択いただくことで削減したコストの一部を原資として2011年にスタート。地域の市民と全国の社員も参加して学ぶ。**自然共生サイトに6プロジェクト認定**



① 蒜山高原鳩ヶ原草原及び周辺湿原（岡山県、蒜山自然再生協議会）
背丈の低い希少植物に太陽の光を当て、生育を促すために、草刈りを実施



② 尾無の湿地（左）③ 中津干潟（右）（大分県、NPO法人水辺に遊ぶ会）
生息するベッコウトンボ（左）カブトガニの保全を学ぶ子供たち（右）



④ おだわらめだかの郷（神奈川県、めだかサポーターの会／一般社団法人おだわら農人めだかの郷）
メダカ生息地を体感 観察ウオーキング大作戦

